

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社サラサホーム		
事業所名	サラサホーム(2階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171500313-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ユニット…元病院の雰囲気が残っており、全体的に白を基調とした色で統一された空間となっている。居室によっては室内にトイレが設置されているため、プライバシーが守られ安心感がある。ほか共用トイレもあり使用可能。3階と比較し入居者の認知度はやや高めなため、簡単な体操や言葉遊びなど入居者に合わせた取組を中心に行っている。また、歌がお好きな方が多いためカラオケも好評である。

40代～70代まで幅広い年代の職員がおり、意見交換やアイデアを持ちより、いろいろなことにチャレンジしていきたいという意欲は感じられるユニットとなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は高速道路のインターチェンジや国道に近い場所に位置しており、家族なども面会がしやすい環境にある。周辺には喫茶店(レストラン)、商店なども多く外出などにも恵まれている。1階には理念や施設の目標、説明などに加え過去の写真が置いてあり、家族や来訪者が閲覧できるようになっている。2階3階とフロアごとに雰囲気の変わる飾りつけは利用者を楽しませている。地域との関係も良好であり、季節野菜の差入れなどもあり、食材として利用している。管理者の交代があり、積極的に地域密着型サービス事業所としての運営をめざし、利用者主体の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2階ユニット)

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を掲示することで可視化し、いつでも見られるような工夫をしている。 ・理念を皆で共有しながら認知症の方と向き合い、日々和やかに過ごしていただけるよう実践につなげている。	理念は、過去に職員全体で作成したものであり、各フロアの目につく場所に掲示している。新人職員研修や様々な研修の際に、必ず理念について再確認し共有しながら事業運営に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・これまで感染症等の影響で地域とのつながりが一時遮断されてしまっていたが、今年度からは徐々に地域行事への参加を予定したいと考え夏祭りへ参加する予定だったが施設内で感染症が発生してしまい断念した。 ・地域住民の方から野菜等の寄付をいただくことがあり助かっている。	地域行事への参加を予定していたが、事業所で感染症陽性者が出たため取り止めた事もあるが、その後も、地域から行事案内は届いている。地域住民から野菜等の差入れがあるなど、関係性は良好であり、寄付の食材は利用者の食事に活用をしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議ごとに利用者の状況、職員の状況等を報告し施設の状況について共有している。 ・今年度からBCPへの取り組みが義務化されたことをうけ、施設での取り組みと地域での防災活動について情報を共有、必要な助言を頂くなどしながらサービスの向上を図っている。	運営推進会議には、行政、町内会、民生児童委員、地域住民代表等の参加がある。利用者の様子や事業所の運営状況等の報告を行い、災害用バッテリーの保存法について助言を受けている。議事録は職員間でも共有しサービスの向上を図っている。	運営推進会議では、事業所の現状などが丁寧に共有されている。会議に利用者・家族も当事者として加わる事が出来れば、より利用者に寄り添った支援に繋がると思われる。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に出席してもらいながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。	以前は、コロナ感染予防対策として、対面での相談も困難であったが、最近は、対面にて行政と連携することができている。今後は、生活保護や防災・子育て関係の担当課とも連携し、協力体制をより深めていくとしている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・委員会や研修を中心に皆で身体拘束の弊害や緊急やむを得ない場合の手順等について共通の認識が持てるよう取り組んでいる。 ・3F利用者1名について、つなぎ服の着用をやめることができたことは成果として大きいと感じている。	内部研修を実施し、身体拘束の弊害や緊急時の対応について学び、シミュレーションをしながら対応している。つなぎ服の着用について、検討の結果、解除することができた事例は職員の大きな成長となっている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・委員会や研修を中心に皆で虐待の種類や防止策等について共通の認識が持てるよう取り組んでいる。 ・利用者に対しての声掛けから皆で注意するよう勤めている。 ・職員の話聞くことでストレスを溜め込まないようフォローしている。	虐待防止委員会を定期的に開催し、全職員が虐待について認識を深められるよう研修を行っている。管理者は、ケアの忙しさからくる職員の身体的疲労や心のストレスをフォローしながら、皆で協力し合い、適切なケアを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全職員が制度について学ぶ機会を設けることはなかなか困難ではあるが、介護支援専門員や計画担当者を中心に学習機会を設けるようにしていきたいと考えている。 ・2F利用者ご家族より後見制度を活用するかもしれないと相談を受けているため、必要となった際に必要な支援が行えるよう準備していく。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・施設見学をお願いをし、実際に見学をしていたうで、質疑応答、納得いただいた場合に契約へと話を進めている。 ・利用料等の改定時には、改定内容について文書にて説明し同意をいただく形式としている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会等は開催していないが、個別の問い合わせには都度対応している。 ・外部者の窓口は重要事項説明書に記載している。	家族会は開催していないが、家族の来訪時などに意見や要望を聞きとるよう心がけている。サラサ便りを発行し、事業所の活動や行事、利用者の日々の暮らしぶりがわかる写真を掲載し、家族に送付している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々の会話、毎月のミーティング等で意見や提案を聞き、良いと思うことは反映させるよう努めている。 ・代表者とは電話による報告、相談が中心となっているが、2か月に1度の運営推進会議の際は来館するため、その時に意見や提案をしている。	管理者は職員とコミュニケーションを図り、職員の様々な思いや意見を聞き取っている。代表者は運営推進会議の際に、管理者から職員の意見や提案について報告を受け、把握した上で事業所全体で検討しながら、より円滑な運営が行えるよう取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	・代表者は県外のため日々の状況を把握することができないため、管理者が代行し職員の勤務状況等について定期的に報告している。勤務については極力希望に沿う形としているが、人員の関係上希望通りに対応できないケースもある。また、今年度より岐阜県介護人材育成事業所認定制度を活用した取り組み宣言を行い、働きやすい職場づくりの取り組みを開始している。	職員がゆとり休憩できる場所が確保されており、喫煙スペースも設けている。管理者は、職員が長く勤務できるよう、出来る限り希望に沿ったシフト調整を行っている。また、就業規則を示し、仕事に取り組みやすい職場環境づくりに努めている。管理者と職員の関係も良好である。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内研修は、年間の研修計画に基づき資料を中心に全職員を対象に取り組んでいる。 ・社外研修は、掲示板に案内を掲示するなどし希望者に個別に対応するようにしている。	法人として年間研修計画を立案し、職員の知識・技術向上に取り組んでいる。職員と個別面談を行い、スキルアップを希望する職員には情報提供とその機会を提供している。外部研修に参加した職員が、他の職員へ伝達研修を行ったり、回覧等で研修内容を報告するなど、職員のスキルの統一を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内のグループホーム部会へ加入しており定期的に参加しているが、今年度は施設内の感染症の影響や人員の関係上、出席できるだけゆとりが作れずにいる状況となっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員には双方の信頼関係から親しみある関係へとなり、双方に頼り頼られる仲間となっていく旨を伝えており、実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・事前のアセスメント、本人、ご家族からの聞き取りにより把握するよう務めている。 ・日頃の会話の中で聞かれる発言について、その真意は何なのかということを考えながら思いが汲み取れるよう務めている。	利用者・家族から、希望や思いを聞き取り、把握した事を記録し職員ミーティングで共有している。利用者から「犬の散歩へいきたい」という訴えがあり、家族が犬を連れて訪問したケースもある。利用者の願いを叶えられるよう、家族の協力を得て支援につなげている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・PDCAを基本とし、聞き取りやカンファレンスでの情報収集から、現状に即した介護計画書を作成している。	介護計画作成にあたっては、利用者と家族の意向や希望を把握した上で、職員の意見、主治医や他の専門職からも意見やアドバイスを受けながら検討している。利用者一人ひとりに寄り添いながら、本人本位のプラン作成を目指している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の様子を24時間の個別記録に記録し、計画担当者と情報共有できるようにしている。	職員は、利用者の日々の様子を業務日誌や個別支援経過などへ記載している。ヒヤリハットなども個別記録に落とし込み、モニタリングの際に評価を行い、介護計画の見直しに活かしている。	パソコンや手書き等で利用者の状態を記録している。今後、スムーズな連携と業務負担の軽減を目指して、デジタル化の推進も提案したい。その際には、全職員が使えるように、学ぶ機会を設けるなど、実現に期待したい。
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々のニーズに対応して行える可能な範囲での支援には取り組んでいるものの、既存サービスにとらわれない柔軟なサービスの展開には至れていないのが現状となっている。	本人・家族のニーズを受け止め、事業所としてできること、家族の協力を得てできることなどを整理し、受診同行や買い物支援など、柔軟に取り組んでいる。また、近くの喫茶店へ全員で出かけることができ、利用者に喜ばれている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域住民からの寄付、通院時の介護タクシーの活用、近所の飲食店への外食、行きつけの美容院、マッサージなど個々に有する地域資源を把握しながら活用できるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・業務委託契約している嘱託医が月に2回の往診と内服の処方をしている。 ・緊急を要する際は、嘱託医へ指示を仰ぐが救急搬送するケースが多い。 ・個別にかかっている病院への通院等は、家族により通院同行していただいている。	入居時に、法人の協力医と従前の主治医を選択することができる事を説明している。協力医の往診は定期的実施されている。眼科・歯科などについては、その都度、家族と協議し、必要な場合は職員が受診同行を行っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には情報提供し、定期的に状態について共有しながら早期に退院できるよう日頃から連携がとれるような関係性を築いている。	入院時は、概ね半年毎に利用者の医療介護情報を更新、サマリーを医療機関へ提供している。家族も含めて医療機関と相談しながら、入退院の支援をしている。退院時は、管理者が退院カンファレンスに参加し現状を把握した上で、ホームへの受け入れを行っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居前の面談時において重度化した場合の対応について説明し納得いただいたうえで入居していただくようにしている。 ・職員体制等の関係から終末期における看取りケアの対応は困難であるが、よく話し合い双方が納得した場合においてのみ実施する場合がある(令和6年度今現在においては無い。)	入居時に、ホームとして対応できる支援について丁寧に説明している。看取りに関する指針は作成済みであるが、医療機関と24時間の連携が困難であることから、現状は看取り対応ができないことを伝え、同意を得ている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当講習会の開催、緊急時の具体的な対応法マニュアルの整備、外部相談窓口の掲示等行いながら、皆で実践力を身に付けられるよう取り組んでいる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練の実施、BCPの作成及び訓練の実施などを通じて災害時にとるべき対応方法について身につけられるよう取り組んでいる。 ・災害が発生した場合に地域、施設双方に連携がとれるような仕組み作りがなされている。	災害時におけるBCP・消防計画・設備点検・避難訓練・備蓄品についての記録等を整備している。地域住民と連携し、防災訓練を実施している。また、地域との協力体制を構築し、事業所を一時避難所に提供するなど、より良い関係性を築いており万一の災害に備えている。	災害時には、地域との繋がりや協力体制もあるが、更に地域との「災害時支援(協力)体制」作りに向けて、協定書を交わすなど、協力関係を継続できる体制整備に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・研修により認知症の症状への理解を深めながら、対応方法について皆で学習しながら実践につなげている。 ・職員によっては、相手の思いよりも自分の思いを優先した言葉がけをしてしまう者もいるので、都度個別に指導しながら理解を深めてもらうよう努めている。	入職時には、「接遇研修」を実施し、認知症の症状に関する基本的な研修で学びを重ね、実践に活かしている。利用者一人ひとりの人格を尊重し、浴室やトイレなどプライバシーに配慮した環境整備と共に、支援の際には、特に羞恥心に配慮した支援に努めている。希望があれば同性介助にて対応している。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、自己決定ができるような働きかけに心がけた声掛けに努めている職員が大半ではあるが、一部の職員については、指示とも捉えられるような声掛けをしていることもある。			
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・どうしても業務というくりでやらなければならないことをこなしていくという感覚に陥りがちとなり、職員側のペースになってしまうこともあるが、できる限り希望に沿って支援するように努めている。			
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・感染症の流行以来、一緒に作業するという機会はなくなっているが、食事は楽しみにされている。 ・個別に箸と湯呑を用意してもらうことで、個性を出してもらっている。 ・個別に嗜好や食べやすい形態を確認して、それぞれに合わせた食事の提供に心がけている。	周辺住民や家族から、野菜等の差し入れがあり、毎日の食事やおやつ作りに利用している。職員の手作りで、季節を感じられるよう工夫しながら、利用者の満足度につなげている。職員も利用者と一緒にテーブルを囲み、楽しい食事時間となっている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日毎食摂取量を記録しながら様子を見ている。 ・水分は食事以外でお茶の時間を設け不足しないよう心がけて提供している。			
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・原則毎食後に口腔ケアを実施している。また毎週土曜日を義歯洗浄の日とし対象者について洗浄剤を使用して義歯洗浄を実施している。	毎食事後の歯磨きや、義歯の定期的な消毒を実施している。職員は、口腔内の清潔保持が利用者の健康維持に欠かせない事を認識しており、本人の状態に合った支援を行っている。事業所の協力歯科もあるが、家族が行き慣れた歯科へ受診することが多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・支援が必要な入居者を対象に排せつ記録表を作成し、記録表をもとに声掛けや必要な支援を実施している。 ・排便のコントロールが必要な入居者についても排せつ記録表をもとに便秘とならないように管理している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・原則1人毎週2回以上の入浴が確保できるように予定を組んで実施している。 ・シフトの関係上、いつでも好きな時に入浴していただくことはできないため、ある程度決められた時間内で実施している。 ・曜日の制限はないが行事等の関係で中止することはある。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・休みたいときに休めるように支援しているが、過度な休息は昼夜逆転の要因にもなりかねるため、適度に声をかけるようにしている。 ・夜間帯は照明や空調をはじめ安眠できるように個別に調整しながら対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・全職員が理解できるように薬の説明書を個別のファイルに綴じいつでも見られるような工夫をしている。 ・内服が変更となった場合等については、全職員へ申し送り、変更となった日以降の記録を詳細に記入する等して状態変化の有無について注意するよう努めている。	薬剤情報は、すべての職員が確認できるよう個別ファイルに綴じ、誤薬や事故のないよう努め、適切に保管している。薬の変更時は申し送りなどで情報を共有し、利用者の体調の変化を全職員で観察し、マニュアルに沿った迅速な対応に取り組んでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活パターンが単調なものにならないよう体操やレクリエーション活動を取り入れながら刺激のある生活が送れるよう努めている。 ・参加主体は入居者のため無理強いはいしていない。 ・行事規模での外出は環境的に困難であるため、近場の散歩等外へ出る機会を増やしていけると良いと考えている。	利用者から直接把握できたことや、家族から確認した好きなことや出来ることを継続ができるよう、声かけや働きかけを行っている。事業所内のカーテンの開閉を役割として担う男性利用者もある。今後は、日々の生活に即した軽作業を本人の役割として継続できるよう、ケアプランに落とし込むことを検討している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個別の外出については家族の協力のもと実施されている。 ・外出時には感染症への対応をお願いし、協力してもらっている。	感染症予防対策を継続しながら、利用者の満足度の高い喫茶店への外出支援を行っている。地域の行事も、職員配置や利用者の状態を見ながら、タイミングが合えば参加を検討するとしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・施設内で金銭を利用する機会がないため、個人では持っていない。希望がある方については入居時に預り金として事務所で管理(無償サービス)しているが、ほぼ使用することはない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの問い合わせで本人に代わってほしいという希望があった場合には、都度話ができるよう支援している。 ・手紙を書かれる入居者の方については、書いた手紙を預かり家族の方へ渡すよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・2F、3Fそれぞれ雰囲気が違うため、雰囲気に合わせた空間づくりに努めている。 ・建物自体の築年数が30年以上経過しており、設備の老朽化等により故障してきた部分を修理しながら使用している。	元々は医療機関であった建物であり、フロアごとに雰囲気の異なる装飾になっている。1階には過去の懐かしい写真が展示しており、来訪者にも楽しんでもらえるよう工夫している。3階には、家族が描いた絵画なども飾り、各ユニットの利用者が楽しめるような空間を演出している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間については、自然と自分の居場所が決まっている様子であり、仲の良い方同士近くで話をしたりする環境ができている。 ・共用空間はにぎやかなため、1人で静かに過ごしたいときには居室で過ごしていただくよう声掛けしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内へ持ち込まれるものについては、原則自己管理が可能な範囲でお願いしている関係上、個別に相談しながら環境整備している。また、居室面積等に制限があるため、過度な荷物の持ち込みは遠慮いただき、安全に過ごせることを優先としてお願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・分かりづらい場所には目印を設置したり、廊下、トイレに手すりの設置等安全に暮らせるような工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社サラサホーム		
事業所名	サラサホーム(3階ユニット)		
所在地	岐阜県中津川市手賀野403-5		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年12月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3階ユニット…ユニット内に部分的に木材を使用しており温かみの感じられる空間づくりとなっている。一軒の家の中にいるような感覚の中で、入居者の方々が思い思いに過ごしながらかしく暮らしている。カルタやパズルなど頭の体操を取り入れた活動を皆で楽しく行いながら、認知症の進行予防にも取り組んでいる。自立歩行から車イスまで様々な状態の方が混在しているが、勤続年数の長い職員が多く認知症への理解と個々の状態をしっかりと葉把握したうえで個別のケアに取り組めているため、入居者の方も安心して暮らしている。今年度から近場への外食行事を開始した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(3階ユニット)

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念を掲示することで可視化し、いつでも見られるような工夫をしている。 ・理念を皆で共有しながら認知症の方と向き合い、日々和やかに過ごしていただけるよう実践につなげている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・これまで感染症等の影響で地域とのつながりが一時遮断されてしまっていたが、今年度からは徐々に地域行事への参加を予定したいと考え夏祭りへ参加する予定だったが施設内で感染症が発生してしまい断念した。 ・地域住民の方から野菜等の寄付をいただくことがあり助かっている。			
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議ごとに利用者の状況、職員の状況等を報告し施設の状況について共有している。 ・今年度からBCPへの取り組みが義務化されたことをうけ、施設での取り組みと地域での防災活動について情報を共有、必要な助言を頂くなどしながらサービスの向上を図っている。			
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進会議に出席してもらいながら協力関係が築けるよう取り組んでいる。			
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・委員会や研修を中心に皆で身体拘束の弊害や緊急やむを得ない場合の手順等について共通の認識が持てるよう取り組んでいる。 ・3F利用者1名について、つなぎ服の着用をやめることができたことは成果として大きいと感じている。			
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・委員会や研修を中心に皆で虐待の種類や防止策等について共通の認識が持てるよう取り組んでいる。 ・利用者に対しての声掛けから皆で注意するよう勤めている。 ・職員の話を聞くことでストレスを溜め込まないようフォローしている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全職員が制度について学ぶ機会を設けることはなかなか困難ではあるが、介護支援専門員や計画担当者を中心に学習機会を設けるようにしていきたいと考えている。 ・2F利用者ご家族より後見制度を活用するかもしれないと相談を受けているため、必要となった際に必要な支援が行えるよう準備していく。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・施設見学をお願いをし、実際に見学をしていたうえで、質疑応答、納得いただいた場合に契約へと話を進めている。 ・利用料等の改定時には、改定内容について文書にて説明し同意をいただく形式としている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会等は開催していないが、個別の問い合わせには都度対応している。 ・外部者の窓口は重要事項説明書に記載している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々の会話、毎月のミーティング等で意見や提案を聞き、良いと思うことは反映させるよう努めている。 ・代表者とは電話による報告、相談が中心となっているが、2か月に1度の運営推進会議の際は来館するため、その時に意見や提案をしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	・代表者は県外のため日々の状況を把握することができないため、管理者が代行し職員の勤務状況等について定期的に報告している。勤務については極力希望に沿う形としているが、人員の関係上希望通りに対応できないケースもある。また、今年度より岐阜県介護人材育成事業所認定制度を活用した取り組み宣言を行い、働きやすい職場づくりの取り組みを開始している。		
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・社内研修は、年間の研修計画に基づき資料を中心に全職員を対象に取り組んでいる。 ・社外研修は、掲示板に案内を掲示するなどし希望者に個別に対応するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・市内のグループホーム部会へ加入しており定期的に参加しているが、今年度は施設内の感染症の影響や人員の関係上、出席できるだけゆとりが作れずにいる状況となっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員には双方の信頼関係から親しみある関係へとなり、双方に頼り頼られる仲間となっていく旨を伝えており、実践している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・事前のアセスメント、本人、ご家族からの聞き取りにより把握するよう務めている。 ・日頃の会話の中で聞かれる発言について、その真意は何なのかということを考えながら思いが汲み取れるよう務めている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・PDCAを基本とし、聞き取りやカンファレンスでの情報収集から、現状に即した介護計画書を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の様子を24時間の個別記録に記録し、計画担当者と情報共有できるようにしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々のニーズに対応して行える可能な範囲での支援には取り組んでいるものの、既存サービスにとらわれない柔軟なサービスの展開には至れていないのが現状となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域住民からの寄付、通院時の介護タクシーの活用、近所の飲食店への外食、行きつけの美容院、マッサージなど個々に有する地域資源を把握しながら活用できるよう支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・業務委託契約している嘱託医が月に2回の往診と内服の処方をしている。 ・緊急を要する際は、嘱託医へ指示を仰ぐが救急搬送するケースが多い。 ・個別にかかっている病院への通院等は、家族により通院同行していただいている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院時には情報提供し、定期的に状態について共有しながら早期に退院できるよう日頃から連携がとれるような関係性を築いている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居前の面談時において重度化した場合の対応について説明し納得いただいたうえで入居していただくようにしている。 ・職員体制等の関係から終末期における看取りケアの対応は困難であるが、よく話し合い双方が納得した場合においてのみ実施する場合がある(令和6年度今現在においては無い。)		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・応急手当講習会の開催、緊急時の具体的な対応法マニュアルの整備、外部相談窓口の掲示等を行いながら、皆で実践力を身につけられるよう取り組んでいる。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災訓練の実施、BCPの作成及び訓練の実施などを通じて災害時にとるべき対応方法について身につけられるよう取り組んでいる。 ・災害が発生した場合に地域、施設双方に連携がとれるような仕組み作りがなされている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・研修により認知症の症状への理解を深めながら、対応方法について皆で学習しながら実践につなげている。 ・職員によっては、相手の思いよりも自分の思いを優先した言葉がけをしてしまう者もいるので、都度個別に指導しながら理解を深めてもらうよう努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、自己決定ができるような働きかけに心がけた声掛けに努めている職員が大半ではあるが、一部の職員については、指示とも捉えられるような声掛けをしていることもある。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・どうしても業務というくりでやらなければならないことをこなしていくという感覚に陥りがちとなり、職員側のペースになってしまうこともあるが、できる限り希望に沿って支援するように努めている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・感染症の流行以来、一緒に作業するという機会はなくなっているが、食事は楽しみにされている。 ・個別に箸と湯呑を用意してもらうことで、個性を出してもらっている。 ・個別に嗜好や食べやすい形態を確認して、それぞれに合わせた食事の提供に心がけている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日毎食摂取量を記録しながら様子を見ている。 ・水分は食事以外でお茶の時間を設け不足しないよう心がけて提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・原則毎食後に口腔ケアを実施している。また毎週土曜日を義歯洗浄の日とし対象者について洗浄剤を使用して義歯洗浄を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・支援が必要な入居者を対象に排せつ記録表を作成し、記録表をもとに声掛けや必要な支援を実施している。 ・排便のコントロールが必要な入居者についても排せつ記録表をもとに便秘とならないように管理している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・原則1人毎週2回以上の入浴が確保できるように予定を組んで実施している。 ・シフトの関係上、いつでも好きな時に入浴していただくことはできないため、ある程度決められた時間内で実施している。 ・曜日の制限はないが行事等の関係で中止することはある。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・休みたいときに休めるように支援しているが、過度な休息は昼夜逆転の要因にもなりかねるため、適度に声をかけるようにしている。 ・夜間帯は照明や空調をはじめ安眠できるように個別に調整しながら対応している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・全職員が理解できるように薬の説明書を個別のファイルに綴じいつでも見られるような工夫をしている。 ・内服が変更となった場合等については、全職員へ申し送り、変更となった日以降の記録を詳細に記入する等して状態変化の有無について注意するよう努めている。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・生活パターンが単調なものにならないよう体操やレクリエーション活動を取り入れながら刺激のある生活が送れるよう努めている。 ・参加主体は入居者のため無理強いはいしていない。 ・行事規模での外出は環境的に困難であるため、近場の散歩等外へ出る機会を増やしていけると良いと考えている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個別の外出については家族の協力のもと実施されている。 ・外出時には感染症への対応をお願いし、協力してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・施設内で金銭を利用する機会がないため、個人では持っていない。希望がある方については入居時に預り金として事務所で管理(無償サービス)しているが、ほぼ使用することはない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・家族からの問い合わせで本人に代わってほしいという希望があった場合には、都度話ができるよう支援している。 ・手紙を書かれる入居者の方については、書いた手紙を預かり家族の方へ渡すよう支援している。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・2F、3Fそれぞれ雰囲気が違うため、雰囲気に合わせた空間づくりに努めている。 ・建物自体の築年数が30年以上経過しており、設備の老朽化等により故障してきた部分を修理しながら使用している。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間については、自然と自分の居場所が決まっている様子であり、仲の良い方同士近くで話をしたりする環境ができている。 ・共用空間はにぎやかなため、1人で静かに過ごしたいときには居室で過ごしていただくよう声掛けしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内へ持ち込まれるものについては、原則自己管理が可能な範囲でお願いしている関係上、個別に相談しながら環境整備している。また、居室面積等に制限があるため、過度な荷物の持ち込みは遠慮いただき、安全に過ごせることを優先としてお願いしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・分かりづらい場所には目印を設置したり、廊下、トイレに手すりの設置等安全に暮らせるような工夫をしている。		